

## 8. 高校生のための看護学を学ぶ公開講座

高校生のための看護学を学ぶ公開講座は、看護学に高校生が触れ考える機会を提供するもので、高校生が学問として看護を学ぶということ、大学で看護を学ぶ志向性を強めることを目指し実施している。令和4年度の大学案内の看護学部の巻頭特集は、看護学研究科長と大学院生が語り合い、「建学の当初から大切にしているのは実践としての看護と学問としての看護の両立」であることをアピールしており、その内容に結びつく、「看護研究」をテーマとした。今年度も Covid-19 の感染状況を踏まえ、オンデマンドとライブ型の web 配信形式で実施する方向で計画を立てた。しかし、web に加えて対面でのオープンキャンパスを実施することが決定したため、プログラムに組み入れ、3年ぶりの対面開催となった。

- ・実施日時：令和4年12月11日(日)
- ・参加人数：定員20名(事前予約制)、参加者は高校生19名(申込者20名)、付添者18名(見学)。
- ・担当者：地域看護学領域 小澤若菜准教授(サポート教員1名)
- ・テーマ：「ピアサポートと看護」
- ・内容：講義とグループワーク

看護の対象となる人や集団、地域が、看護研究の対象であること、看護研究が実践につながっていくこと、研究倫理など大学で行う卒業研究についての講義を行った。また、学会誌で既に発表されている卒論のテーマ(概念：ピアサポート)を取り上げ、どんな疑問がありその概念にたどり着いたのかを、看護研究のプロセスを踏まえながら紹介した。グループワークを取り入れ、高校生は4グループに分かれて、ディスカッションを行った。公開講座には、オープンキャンパスをサポートする学部4回生が参加しており、自身の看護研究の体験談を高校生に伝えた。参加した高校生の感想には、看護における倫理の大切さなどもあがっており、高校生は教員から直接講義を受けることに加え、学部生から直接、看護研究についての話を聴くことができ、大学で看護学ぶイメージを持つことができたと思う。

